

日時：2022 年 6 月 6 日（月）17:00～19:00

場所：Zoom を用いたリモート会議

出席者：坂本慎一（主査）、河原塚透（幹事）、平栗靖浩（幹事）、會田祐、古賀貴士、佐久間哲哉、佐藤洋、杉江聡、辻村壮平、富来礼次、富田隆太、中川武彦、中澤真司、羽入敏樹（前主査）、浜田幸雄、平光厚雄、星和磨（敬称略）

欠席者：池上雅之、石渡智秋（敬称略）

提出資料：

2022年度第1回議事次第

資料1-0 2021年度第4回音環境運営委員会議事録（案）

資料1-1(1) 220602\_環境工学本委員会（第1回）議題

資料1-1(2) 220602\_環境工学本委員会（第1回）資料

資料1-2 20220530音環境運営委員会（規準検討小委活動報告メモ）

資料1-3 20220602音環境運営委員会（室内音響小委員会）

議題：

前回議事録（2021年度第4回）を確認し、承認された。（資料 No.1-0）

#### 1) 環境工学本委員会の報告（資料 No.1-1 (1), (2)）

- ・ 環境工学本委員会新委員：岡田先生（名城大学）、梅宮先生（大阪市立大）
- ・ 2020～2022年度調査研究委員会活動報告会：3月22日に開催、環境工学委員会に関しては好意的な意見が多数
- ・ 2022年度鹿島学術振興財団研究助成選考結果：継続5件、新規5件が採択された
- ・ 2022年度竹中育英会応募数：環境工学14件（2021年度16件）
- ・ 2022年度特別研究（追加募集）テーマ選考結果：5提案中3テーマが採択、環境工学関連としては分野横断テーマである「マルチハザードに対応可能な複合災害建築に関する研究」が採択された
- ・ 2021年度調査研究予算消化率：環境工学は1%と低いが、消化する必要は特になし
- ・ 常置調査研究委員会の予算使途：コロナ禍で旅費での使用が減っているため、希望使途を募ったもの。要望はいろいろあったが、一定の規律が求められ、本会のありかたに関する共通認識をベースとしたルールに則り行われるべき
- ・ 連絡調整WGと今後の対応：異なる分野間の連絡調整と活動活性化を目的として作られたが、いまだ実効的に動きがないのでこれから活動していく。
- ・ 大会関連：環境工学の件数1,187件、概ね例年通り。発表方法はZoomにより講演発表と質疑応答をリアルタイムで行う。数名のアルバイト学生を募集。若手優秀発表賞の実施、音環境は例年通りであるが建築設備は審査基準変更の議論行っている。変更があれば本委員会に報告する必要がある
- ・ 学会活動のDXについて：学会のHPがDXにふさわしくない構成になっているという意見が持田先生よりあった
- ・ 環境工学連合講演会について：今年度は5月31日に開催済みであるが、来年は建築学会が担当となるためよろしくとのこと
- ・ 設計競技事業委員会委員の推薦依頼：環境工学から1名、森太郎先生（北海道大学）
- ・ 直営刊行物の絶版について：環境工学で2つの刊行物（電磁関係のAIJES）について、処分の是非とその理由販売方策等、9月21日までに事務局へ回答。絶版としても学会として数部は保管、基準としては残せる
- ・ 2023年度に制定から5年を経過するAIJESについて：音環境は該当なし
- ・ 催し物実施報告：第39回環境振動シンポジウム、支出予算に間接経費を予定収入の15%以上を計上する。支出決算ではこれまで通り0円でよし
- ・ 催し物予定：4件が予定されており、1件が音環境のチュートリアル「音環境の数値シミュレーション2022」第2回音環境問題への応用。承認された。予算計画書の書式が古いが承認されたので問題なし

- ・ 公募委員選定結果：環境振動測定分析小委員会にて1名募集のところ2名の応募があり、最も適任と判断した1名を採用。環境バリアフリー・ユニバーサルデザイン小委員会にて若干名募集のところ応募者0名
- ・ 会員外委員委嘱について：4名が承認された
- ・ シンポジウム等開催手続き解説動画の公開：事務局に質問が多いため先ずは動画を見て下さい
- ・ 大賞候補について：第3回本委員会で
- ・ 10月20日に締め切りのものが多いので注意、若手優秀発表賞選考結果、次年度OSテーマ

## 2) 審議事項

- ・ 2022年度建築学会大会若手優秀発表賞選考について：例年どおり運営委員、司会者あてに審査員の委嘱願いを送付予定。選考対象、審査項目、審査方法、集計方法、表彰者の決方法も例年通りとする
- ・ 学会賞の件：2013年～2022年の10年間で音環境は羽入先生しか学会賞（論文）を授賞していないため、分野盛り上げのためにもしかるべき方は応募して頂きたい。なお、学会賞（技術）は2020年に大林組が受賞している。

## 3) 各小委員会・WGの活動報告（資料 No.1-2、1-3）

### ① 固体音小委員会

- ・ 今年度は活動なし。2021年度第5回を2月9日に開催。今年の大会OSの内容、インピーダンスの予測比較等に関する討議など。第1回を6月8日に開催予定

### ② 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会

- ・ 今年度は活動なし。2021年度第2回を3月24日に開催。鉄道騒音の測定・評価方法の検討の進め方について討議、次回を7月初旬に開催予定

### ③ 建築音響測定法小委員会

- ・ 2021年度第6回を3月28日に開催。3月に開催したシンポジウムの振り返り、小林理研で実施した音響エネルギー密度実験の大会投稿の確認
- ・ 5月26日に2022年度第1回を開催。現場における低音域の室内音場の評価に関する実験計画に関して討議。次回を7月21日に開催予定

### ④ 室内音響小委員会

- ・ 2021年度第3回を3月31日にVCで開催。吸音設計AIJESについての意見交換、次回からまとめとして、室内音響小委で取り組むべき課題等について検討を行う予定。次回未定
- ・ 子どものための音環境WG：5月15日に日本保育学会の全国大会（オンライン）があり、自主シンポジウムの枠で委員登壇、参加者の1名から後日コンタクトもあり、音響改修の相談あり。昨年から保育学会に加えて、共同研究者と連名で特別支援教育にかかわるLD学会、特殊教育学会にも出席。6月中にWG開催予定
- ・ 啓発コンテンツWG：6月初旬に今年度WG開催予定
- ・ 吸音設計AIJES検討WG：3月23日に昨年度最後のWGを今年度の委員構成（新委員はオブザーバ参加）で開催。6月8日に今年度の第1回を開催予定。AIJESが対象（あるいは対象外）とする建物分類、吸音性能の物理量（評価指標）として何を用いるか等を検討

### ⑤ 音響数値解析小委員会

- ・ 今年度は活動なし。2021年度第4回を3月23日に開催。3月に開催したシンポジウムの振り返り等を行った。発表者を含め75名の参加があり盛会であった。書籍のチュートリアルについて8月8日、10月6日の2回開催することを決定

### ⑥ 音環境規準検討小委員会

- ・ 2021年度第6回を3月7日に開催。事務所のAIJES整備方針について議論を開始。今年度の第1回を5月9日に開催。引き続き事務所のAIJES整備方針について議論。第2回を7月4日、第3回を9月12日に開催予定
- ・ 集合住宅音環境AIJES検討WG：第1回を4月27日に開催。床衝撃音を評価する際の、標準衝撃源や実衝撃源の課題等を確認。第2回を5月30日に開催。これまでの議論を項目ごとに整理し、整備方針の合意済み項目、合意に向けて議論中の項目等を確認しメンバー間で認識を共有

### ⑦ 企画・広報 WG

- ・ 今年度は活動なし。2021年度第5回を3月22日に開催。音環境運営委員会で議論した社会還元促進の内容を委員に説明し討議。WGとして考え得る具体的な案を複数あげ、運営委員会や音環境に関わる研究者にアンケートを行う予定。4月27日に幹事団で打ち合わせ実施。今年度の第1回は6月中旬に開催予定
- ・ 建音検索は分類のための下準備中。大会までには整理を終える予定

#### ⑧ 実務的遮音計算方法WG

- ・ 第1回を6月1日に開催。これまでの音環境に関わる刊行物のアップデートや統合、新刊などについて議論を開始。まずは実務的対策指針のチャート部分のブラッシュアップから。第2回を7月27日に開催予定

#### ⑨ その他

- ・ 司法支援建築会議普及交流部会：司法支援建築会議講演会12月9日「自然災害を巡る建築紛争の予防と対応」
- ・ 日本音響学会・建築音響研究会：満39歳以下の発表者を対象とした若手優秀発表賞が創設された

#### 4) 各他学会・研究会の予定

- ① 日本音響学会・建築音響研究会：6/23 床衝撃音、7/15 音響心理、8/9 数値解析、10/13 数値解析、11/15 東大生研で騒音振動研究会との共催
- ② 日本音響学会・騒音振動研究会：6/20 島根大学、7/25 神奈川大学、8/18 近畿大学、10/6 同志社大学、11/15 東大生研で建築音響研究会との共催

#### 5) その他

- ・ 2022年度建築学会大会の音環境分野の投稿数：78件（昨年66件）微増傾向

#### 6) 次回以降の予定

第2回：2022年9月27日（火）17:00-19:00（本委員会 9/27）

第3回：2022年11月8日（火）17:00-19:00（本委員会 11/8）

第4回：2023年3月2日（木）17:00-19:00（本委員会 3/2）

以上